

氏 名	内田 健太郎
学 位 の 種 類	博士（ 医学 ）
学 位 記 番 号	第 6254 号
授 与 報 告 番 号	甲第 3539 号
学位授与年月日	平成 28 年 3 月 22 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当者
学 位 論 文 名	Parahippocampal Atrophy is Associated with Depressive Symptoms in Alzheimer's Disease (海馬傍回の委縮はアルツハイマー病におけるうつ症状と関係する)
論 文 審 査 委 員	主 査 井上 幸紀 教授 副 査 伊藤 義彰 教授 副 査 首藤 太一 教授

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】

アルツハイマー病 (AD) 患者は高頻度でうつ症状を呈し、その病理学的背景は不明である。The voxel-based specific regional analysis system for AD (VSRAD)は内側側頭葉の関心領域 (ROI: region of interest) の萎縮を比較的簡便に定量化できる画像解析ソフトである。今回 AD 患者における内側側頭葉の萎縮を VSRAD で計測した結果とうつ症状の重症度の関連について検討した。

【対象】

大阪市立弘済院附属病院に通院中で NINCDS-ADRDA 研究班による AD 診断基準にて probable AD と診断され、Mini Mental State Examination にて総得点 23 点以下であった患者 39 名（男性 11 名、女性 28 名）である。平均年齢は 82.3 ± 6.0 歳、認知症の平均罹病期間は 2.1 ± 2.0 年であった。

【方法】

高齢者のうつ症状評価尺度である Geriatric Depression Scale (GDS) を使用し、GDS 得点が 11 点以上でうつ症状が存在するとした群 [D 群: $n=20$] と GDS 得点が 10 点以下でうつ症状が存在しないとした群 [ND 群: $n=19$] の 2 群に分類した。頭部 MRI 画像を VSRAD で解析して得られた各種パラメーターと患者背景について 2 群間比較を行った。さらに全患者に対し、GDS 得点と VSRAD で算出した各種パラメーターの相関について解析した。

【結果】

ROI 内の萎縮の程度と、ROI 内で萎縮している領域の割合の 2 項目につき両群間で有意差を認めた ($P<0.05$)。さらに GDS 得点と ROI 内の萎縮の程度の間に関連を認めた。

【結論】

うつ症状を伴う AD 患者は伴わない AD 患者よりも内側側頭葉の萎縮が強く、うつ症状が重いほど萎縮は高度であった。今回の研究から AD 患者の内側側頭葉萎縮がうつ症状に関連していることが明らかになった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

アルツハイマー病 (AD) 患者は高頻度でうつ症状を呈し、その病理学的背景は不明である。The voxel-based specific regional analysis system for AD (VSRAD) は内側側頭葉の関心領域 (ROI: region of interest) の萎縮を比較的簡便に定量化できる画像解析ソフトである。申請者は AD 患者における内側側頭葉の萎縮を VSRAD で計測した結果とうつ症状の重症度の関連について検討を行った。

大阪市立弘済院附属病院に通院中で NINCDS-ADRDA 研究班による AD 診断基準にて probable AD と診断され、Mini Mental State Examination にて総得点 23 点以下であった患者 39 名（男性 11 名、女性 28 名）を対象とした。平均年齢は 82.3 ± 6.0 歳、認知症の平均罹病期間は 2.1 ± 2.0 年であった。

高齢者のうつ症状評価尺度である Geriatric Depression Scale (GDS) を使用し、GDS 得点が 11 点以上でうつ症状が存在するとした群 [D 群: $n=20$] と GDS 得点が 10 点以下でうつ症状が存在しないとした群 [ND 群: $n=19$] の 2 群に分類した。頭部 MRI 画像を VSRAD で解析して得られた各種パラ

メーターと患者背景について2群間比較を行った。さらに全患者に対し、GDS得点とVSRADで算出した各種パラメーターの相関について解析した。

ROI内の萎縮の程度と、ROI内で萎縮している領域の割合の2項目につき両群間で有意差を認めた($P<0.05$)。さらにGDS得点とROI内の萎縮の程度の間に関連のある正の相関を認めた。

うつ症状を伴うAD患者は伴わないAD患者よりも内側側頭葉の萎縮が強く、うつ症状が重いほど萎縮は高度であった。今回の研究からAD患者の内側側頭葉萎縮がうつ症状に関連していることが明らかになった。

アルツハイマー病は物忘れ症状以外にも様々な心理行動症状を呈する。特にうつ症状は認知症症状との区別が難しく、また治療意欲などとも関連するため、客観的にうつ症状を評価することが課題となっている。申請者がアルツハイマー病患者の内側側頭葉萎縮がうつ症状に関連していることを明らかにした事はうつ症状評価に重要であり、博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。